



1928年(昭和三年)九月十六日

「九月十五日(土)夜九時四十分多くの友人に送られて木下中島を乗換れた。十六日(日)、火山灣の南岸にて夜が明け、馬向ヶ嶽の麓より眺めたる灣の鏡面は美しく、朝七時函館に着き、湯の川時任家の客へ成つた。午後二時より商工會議所の講義堂に於て講演會を開いた。五十銭の聴料を拂いて來り聴く者が百三十人あつた。自分は「繁榮の基礎」並に「宗教の利用に就いて」と題し一度に二回の講演を爲した。函館に於て未だ増つた斯んな氣持の女子の演説を爲したことはない。開會後、今は函館市會議長たる舊關東使時代の同僚松下熊三君に自動車に乗案内され、市内を見物した。警察から歸來り、漁業の振興の爲す所を示され、我が心が躍つた。北海道産業の發達に關する自分の青年時代の理想の實現を見たからである。夜に入り舊い同窓の一人寺尾熊三君を湯の川の家にお互い舊古を語り祈禱を共にして歸つた。充實せる一日であつた。」(先生の日記より轉載す)